2013 年日本国内及び日系海外のボンド磁石生産・需要動向

企画委員長（㈱メイト）
石田　知久

日本国内におけるボンド磁石の生産は、景気回復や需要増に伴い全般的に回復した。希土類系では異方性材料の進展などから増加、フレキシブルフェライト系も復調、リジッドフェライト系は OA 関係やエアコン等の伸長もあり、国内生産のボンド磁石の合計量は 9,300 トンから 10,400 トンへ増大したとみられる。また、日系メーカの海外生産も増大した。これは欧州危機が一服したこと、タイの洪水による被害も復旧したこと、中国の反日騒動も比較的鎮静化していること等（外的マクロ要因）も複合的な要因と思われる

なお、希土類原料の価格が落着いてきたことから、2013 年の希土類ボンド磁石の生産推定にあらためて金額も報告することとした。

国内生産

1.　フレキシブルボンド磁石

生産量は 2012 年の 2,500 トンに対して、2013 年は 2,700 トン、生産金額は 1,890 百万円と推定する。国内品の価格は、マグネットシート＋ PVC フィルム込みの値段であり、多品種少量品および技術的付加価値製品等が中心となり海外生産品よりキログラム単価は高くなる。

2　リジッドボンド磁石

生産量は 2012 年の 6000 トンに対して、2013 年は 6,800 トン、生産金額は 10,300 百万円と推定する。エアコン 20% 増、マグロール 10% 増、センサー小型モータ増などが要因である。

3　希土類ボンド磁石

生産量は 2012 年の 800 トンに対して、2013 年は異方性材料の進展が見られ、900 トン、生産金額は 17,100 百万円と推定する。

日系メーカーの海外生産金額

フレキシブルボンド、リジッドボンド、希土類ボンドともに大きく伸張した。

1.　フレキシブルボンド磁石

2012 年には 460 百万円としていたが情報不足により大幅な修正が必要であり、2013 年は 1,056 百万円と推定する。生産効率アップによる国際価格競争力の上昇が見られたほか、全体的には為替が円安に向いたことによる国内生産量の増大、世界的に経済が安定したことなどが要因と考えられる。

2　リジッドボンド磁石

堅調であり、前年比約 10% 増で 9,400 百万円と推定する。海外生産においても尖閣諸島問題が落着いていることや、円安の影響を比較的受けることなく家電や OA 機器、その他の需要そのものが堅調に推移した。

3　希土類ボンド磁石

一部閉鎖していた日系メーカ工場の再稼働などもあり、3,600 トンと推定する。また、価格変動も落ち着いてきたので、50,000 百万円と推定する。

フレキシブルフェライトボンド磁石

	生産量（トン / 年）	前年比	生産金額（百万円 / 年）	前年比
２０１０年	2,600	103%	1,900	98%
２０１１年	2,600	100%	1,900	100%
２０１２年	2,500	98%	1,880	99%
２０１３年	2700	108%	1,890	100%

リジッドフェライトボンド磁石

	生産量（トン / 年）	前年比	生産金額（百万円 / 年）	前年比
２０１０年	7,000	123%	10,500	125%
２０１１年	6,800	97%	10,200	97%
２０１２年	6,000	88%	9,100	89%
２０１３年	6,800	113%	10,300	113%

希土類ボンド磁石

	生産量（トン / 年）	前年比	生産金額（百万円 / 年）	前年比
２０１０年	600	167%	9,700	168%
２０１１年	700	117%	—	—
２０１２年	800	114%	—	—
２０１３年	900	113%	17,100	—

日系メーカーの海外生産金額

単位：百万円 / 年

	フレキシブル	リジッド	希土類	合計
２０１０年	500	9,500	30,000（3,400 トン）	40,000
２０１１年	500	9,500	（3,300 トン）	—
２０１２年	460	8,500	（3,200 トン）	—
２０１３年	1,050	9,400	50,000（3,600 トン）	—